

(様式1)

## ながのまちづくり活動公開審査申込書

申込年月日	平成 25 年 2 月 4 日	受付番号	<b>23</b>
活動部門・コース	1 企画・研究部門	2 実践活動部門	① ホップコース(スタート枠) ② ホップコース ③ ステップコース ④ ジャンプコース
団体の名称	(フリガナ) ナガノケッコソウダンシヨジユンビシツ 長野結婚相談所 準備室		
団体の所在地			
代表者	(フリガナ) ヤマギシ ヒロシ 氏名 山岸 裕始		
連絡先 (連絡責任者)			
団体の設立年月日	平成 24 年 12 月 1 日		

<p>団体の 設立目的</p>	<p>近年、全国的に少子高齢化が大きな問題となっています。</p> <p>長野市も例外ではなく、国勢調査によると、H12年～H17年の5年間だけでも0～64歳で生産年齢人口と年少人口を合わせた0～64歳までに限れば、10,095人（7.7%）も減少しており、明らかな高齢化、そして『若者の地元離れ』が起こっているといえます。</p> <p>その一つの要因として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が地域の魅力を知らない</li> <li>・地元で結婚をしない</li> </ul> <p>ということが考えられます。</p> <p>地域の魅力や働き先を知ることで、地元に残る、またいずれは地元に戻ってくるという選択をする若者の数は増加すると考えられます。</p> <p>また地元恋人がいて、結婚を考える事で地域から離れる事は少なくなります。</p> <p>そこで若者に地域の魅力を発見してもらい地域で暮らす人と繋がると共に、結婚相手を探せるイベントを実施し、若者の地元への定住を促進する、そこには地域を巻き込んだ新しい形の地域協働の推進・世代間の交流の推進・結婚率、出生率の増加に向けての地域ぐるみの意識醸造を図りながらの人口の自然増を目的にしています。</p>
<p>団体の 活動実績</p>	<p>私たち長野結婚相談所設立メンバーは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県の委託を受け事業として「農業者の婚活サポート事業」の運営</li> <li>・長 con を実行委員として運営</li> <li>・ホテル国際 21 で行われた長野県最大級の出会いパーティの主催</li> <li>・数々の飲食店にて出会いパーティの実施</li> </ul> <p>など多方面にわたり、数々の男女の出会いのサポートを行ってきた。</p>
<p>構成員（会員）数</p>	<p>11名</p>
<p>応募する 活動のタイトル</p>	<p>地域の「世話焼き人」創出事業</p>
<p>応募する活動の 目的及び達成目標</p>	<p>現在の地域や社会の問題・課題と応募する活動の目的</p> <p>近年、長野市で騒がれている人口減少・少子高齢化という課題を解決するために、結婚適齢期の男女の結婚率ひいては出生率の増加を目的とする。</p> <p>応募年度の達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当団体の事業から交際する男女を10組、結婚する男女を1組以上つくる。</li> <li>・当団体の運営しない地域婚活コミュニティを1つ作成する。</li> </ul>

<p>応募する活動の 具体的内容</p>	<p>※実施項目、場所、対象者など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方を講師として募集する</li> <li>・講師に地域の世話焼き人の趣旨説明会</li> <li>・趣旨に賛同いただいた方との今後の活動検討ワークショップ</li> <li>・地域の方を講師として開催する婚活イベントに向けてのモデルイベント開催・効果検証</li> <li>・地域の方を講師として開催する婚活イベントを11月～3月まで月一回の開催</li> <li>・結婚適齢期の子を持つ親同士の婚活イベント11月～3月まで月一回の開催</li> </ul>	
<p>年 間 計 画</p>	<p>4月</p>	<p>婚活イベント講師の募集・告知</p>
	<p>5月</p>	<p>講師希望者説明会 開催</p>
	<p>6月</p>	<p>講師との今後の活動検討ワークショップ</p>
	<p>7月</p>	<p>講師との今後の活動検討ワークショップ、モデルイベント募集開始 (講師1・2)</p>
	<p>8月</p>	<p>モデルイベント実施・アンケート集計・反省</p>
	<p>9月</p>	<p>講師との婚活イベント打ち合わせ</p>
	<p>10月</p>	<p>講師との婚活イベント打ち合わせ、イベント募集開始</p>
	<p>11月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方を講師として開催する婚活イベント</li> <li>・結婚適齢期の子を持つ親同士の婚活イベント 各1回開催(講師3・4)</li> </ul>
	<p>12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方を講師として開催する婚活イベント</li> <li>・結婚適齢期の子を持つ親同士の婚活イベント 各1回開催(講師5・6)</li> </ul>
	<p>1月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方を講師として開催する婚活イベント</li> <li>・結婚適齢期の子を持つ親同士の婚活イベント 各1回開催(講師7・8)</li> </ul>
	<p>2月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方を講師として開催する婚活イベント</li> <li>・結婚適齢期の子を持つ親同士の婚活イベント 各1回開催(講師9・10)</li> </ul>
	<p>3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方を講師として開催する婚活イベント</li> <li>・結婚適齢期の子を持つ親同士の婚活イベント 各1回開催(講師11・12)</li> </ul>

<p>活動することで期待される地域や社会への具体的な効果・成果</p> <p>※「公益性」の視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方を講師として開催する婚活イベント 地域の方を講師として着付け・料理教室・山歩き・アウトドア体験などの企画を実施する。長野の特色を生かしたイベントを開催することで、参加者が地域の魅力を再発見し、経済効果を生む。また、講師の方を仲介とした地域婚活コミュニティの創出、増強が期待する。</li> <li>・親同士の婚活イベント 地域の結婚適齢期の子を持つ親同士で交流する企画を実施する。親が積極的に子の婚活を考えることができ、地域の親同士の新たな婚活コミュニティが生まれる。</li> </ul> <p>結婚適齢期の男女だけでなく、その親や地域の方を巻き込むことで、より大きな社会的効果を生み、地域の発展に努め、地域協働の推進を図ることが可能であると考えます。</p>
<p>活動を継続するための取り組み（資金面、人材等）</p> <p>※「自立性」の視点</p>	<p>地域で教室や体験事業を行っている方を講師とし、教室の体験講座としてイベントを開催することで、経費を抑え運営、しいては参加者の負担を軽減する。</p> <p>また、事業を進めていく上で、当団体が直接運営しない、親同士や講師の方を中心とした地域婚活コミュニティが形成されるように働きかける。</p> <p>地域婚活コミュニティが形成されることで、当団体が企画することなく、地域ごとの婚活イベントが行われ、地域の中で独立した婚活システムが生まれていく。</p> <p>当団体は形成されたコミュニティに対し管理補助・運営補助・教育・広報・啓蒙活動などを行う。</p> <p>また初年度、長野市の長野駅中心の活動をしながら、翌年度以降は幅広く郊外へ活動の幅を広げ、会員や会費の増が見込め、さらに地域は変わるが常に当団体の運営するイベントで収益をあげるにより自立的な運営が可能になる。</p>
<p>翌年度以降の活動内容の概要</p>	<p>翌年度</p> <p>定期的に上記二つの婚活イベントを行いつつ、形成され始めた地域結婚サポート団体の管理補助・運営補助・教育・広報・啓蒙活動を行う。</p> <p>翌々年度</p> <p>定期的に上記二つの婚活イベントを行いつつ、形成され始めた地域結婚サポート団体の管理補助・運営補助・教育・広報・啓蒙活動を行う。</p>
<p>事業の最終目標</p>	<p>二つの事業はともに、地域の中に自立した結婚相談所のシステムを各地域に構築し、最終的に当団体がなくとも、地域の地域による地域のための結婚相談が活発に行われていくことを目標とします。</p> <p>また各地域の活動の管理・運営補助・教育・広報・啓蒙活動を当団体が主としてつづけ、地域の活動を絶やさないのももちろん、広域に発展していくための活動につなげていきます。</p>

必要経費

(単位 円)

科目	金額	
謝金・賃金	120,000	
旅費交通費	0	
消耗品費	20,000	
印刷製本費	20,000	
広告宣伝費	1,000,000	
通信運搬費	0	
使用料	100,000	
備品購入費	0	
合計	<sup>A</sup> 1,260,000 円	

自己資金

名目	金額	
会費	110,000	
寄附金・協賛金	50,000	
参加者負担金		
事業収益金	600,000	
合計	<sup>B</sup> 760,000 円	

補助金要望額 (C)	C = A - B
<p>※補助割合・限度額</p> <p>【企画研究部門】 Aの金額以下、ただし 10 万円以内</p> <p>【実践活動部門】 (スタート枠) A×0.8 の金額以下、ただし 50 万円以内                  (ホップ) A×0.8 の金額以下、ただし 100 万円以内                  (ステップ) A×0.6 の金額以下、ただし 60 万円以内                  (ジャンプ) A×0.4 の金額以下、ただし 40 万円以内</p>	500,000 円  (千円未満切り捨て)